

令和5年度第3回松戸市立博物館協議会 会議録

日 時	令和6年3月10日(日)10時～11時40分
場 所	松戸市立博物館 実習室
出席者	<p>(委員)</p> <p>会 長 小島 孝夫 副会長 佐藤 孝之 委 員 藤崎 裕二 委 員 大西 一樹 委 員 谷鹿 栄一 委 員 岡田 啓峙 委 員 頓田 絵里子 委 員 日高 慎 委 員 百原 新</p> <p>(事務局)</p> <p>教育長 伊藤 純一 生涯学習部長 藤谷 隆 博物館館長 渡辺 尚志 文化財保存活用課職員(博物館) 13名</p>
議 題	<p>1. 「歴史資料所在調査の進捗について」について</p> <p>2. 博学連携展示「松戸探検 100年前からのくらしのうつりかわり」について</p> <p>3. その他</p>
公開 非公開	公開 (傍聴者4人)
配布資料	「歴史資料所在調査の進捗について」資料

事務局 議事に入る前にご報告を申し上げます。松戸市立博物館管理運営規則第14条第2項の規程により、本会議の成立は、委員の過半数の出席が必要とされておりますが、本日は、9名のご出席をいただいておりますので、本会議は成立となります。

会長 4名が傍聴希望されています。許可をいたしますがよろしいですか。

委員 はい。

【傍聴者入場】

会長 それでは議事に入る前に、前回、第2回博物館協議会にて会長を務めることとなりまして、副会長に佐藤委員をご推薦いたしました。皆様にご賛同いただいたところですが、当日佐藤委員ご欠席でしたので、改めてご就任をお願いしたいのですがよろしいでしょうか。

副会長 はい。どうぞよろしくお願いいたします。

会長 議事に沿って進めて参ります。歴史資料所在調査の進捗についてご説明をお願いいたします。

1. 「歴史資料所在調査の進捗について」について ～資料に基づき事務局から説明した～

会長 委員の皆様からご質問やご意見をお願いいたします。

委員 今日報告あったのは、2年度分ということですね、全体の計画も含めて、1点と、あと文中に資料所在不明が4点とありますが、かつてあったはずだが、完全にもう無くなってしまったというような事例があるのでしょうか。

事務局 1点目の全体の件数です。50年前調査のときは50件程、その中で、まずは市史編さんの際に調査した家から調査しておりますが、10件が所在不明になっているとのことでした。所在不明になってしまっている1件については、完全に廃棄されてしまった可能性が高い。先代から、代替わりの時期に廃棄された可能性が高い。所在不明で検索していただいても、50年経ってしまった関係でしっかり把握できていない事例がすでにみられています。今後調査を続けていく中で、同様の事例が生じる可能性が非常に高いと思います。一刻も早く、このタイミングが最後チャンスだとおもっておりますので「文化財保存活用地域計画」を生かしながら、早急に調査を進めていきたいと思っております。

委員 50年もの間何もケアしていなかったなら、虫食いが進んだり消滅したものが出てくる例がありますので、未来のことも考えてこれからも50年間ほっとくってということではなくて、大切にいただければと思います。

委員千葉県博物館協会で行っている災害時における文化財レスキューでは、基幹博物館では資料館の資料をレスキューするというのが、どうしても最優先になってしまいます。松戸市のように、その個人の資料を確認して救済するようなシステムというのはとてもいいことと思います。なかなかできそうでできないことですので、今後も進めていただきたいと思います。

事務局災害を考え、今回配布した資料カラー刷り「資料の保存の手順」というチラシを、家庭での資料の保存を希望された方に配付しています。

有事の際には、市内のどこにどういう資料があるかをしっかり把握する。調査がいままで十分ではなかったのも、今後も計画と連動しながら、進めていきたいと考えております。

会長ぜひ進めていただければと思います。資料の2枚目の表ですが、令和5年度受領受託4件については、すでに受贈・受託されているものですか。それとも候補でしょうか。

事務局すでに受贈・受託の処理手続きが完了している資料件数です。

会長具体的に成果も上がっているということですね。

事務局七右衛門新田の古文書は現在整理中ですが、ほかの古文書についてはすでに整理も完了しております。寄贈・寄託の処理と整理が終わっているものになります。

会長中性紙の封筒を買うだけでも予算が大変です。教育長様には、こうした事業が継続されていくための予算面についてもご配慮いただければと思います。文書の保存についてはお金がかかりますが、博物館の責務でありますので、こういった事業を継続するためにも、十分な予算措置をお願いできればと。カラー刷りの手引きを作成されていることは、啓蒙活動として大変良い試みだと思います。こうした試みをぜひ続けていただければと思います。

委員資料が寄贈される場合、寄託される場合、或いは自宅で保管される場合、それぞれの方法がある。「うちは自分のところで保存するから、寄贈しないよ。」という方もいれば寄贈される方もいる。実は、私もかなりのものをあちこちに寄贈しました。うちにあると困るといのが大きな理由ですが、全部寄贈したいけど、寄贈先が見つからない。寄贈希望を伝えたら、松戸市立博物館は受け付けてくれていたのか。全件お断りしないで受けていたのか、断るのか、その際の理由が知りたい。

事務局今回の調査を行っていく中で2件、ご自宅での保管を希望されている方がいらっしゃいます。自分の家の歴史なので、今後活用する形はなかなか難しいが、自分たちの家でしっかり保存していきたいという気持ちがあるかと思われれます。博物館としても現地保存という考え、つまりもともと資料はもともとの場所で保存することが一番良いという考え方です。土地の歴史で

あり、家の歴史でありますのでそれを無理に寄贈・寄託へと促すのは、必ずしも良いことではないという考え方で議論して参りました。そういったことをかんがみますとやはりご自宅でしっかり保管していきたいというお考えを尊重して、こちらとしても、ご自宅でケアできる方法をご提案するというのも今後も関わり続けて行きたいと考えております。今のはあくまで1例になりますのでご自宅で保管するなどいろいろなお考えがある。臨機応変に対応して参りたいと思います。

委員無理やり持ってくるわけにいかないわけですから、自分の家の歴史だから、自分で保管されたいならそれでいい。保存の方法を伝えてそれをフォローしていくことが大事ですよ。それをスケジュール化するということが大切と思いました。保存しといてねって40年も連絡もしませんではなく、自宅保存のフォローをする仕組みを今作ろうとしていらっしゃる。

事務局ご指摘の通り単発で終わらずに継続的に連絡を取っていきます。これまでできていなかったことですが、今後必ずやっていかなければいけないと感じています。今後の詳細スケジュールを決めていければと思います。

委員わかりました。どうしても家で保存するとなると世代交代のときに資料を紛失してしまうということがよくございます。自宅に保管されている資料についても、博物館が把握していることを、定期的にお伝えいただき、資料の状況調査をやっていただくとよいだろうと思います。

会長よろしいでしょうか。では、時間のこともありますので、歴史資料所在調査の進捗については以上で終わります。続けて、博学連携展示「松戸探検、100年前からのくらしのうつりかわり」について事務局からご説明をお願いいたします。

2. 博学連携展示「松戸探検 100年前からのくらしのうつりかわり」 について～内覧と意見交換を実施した～

会長内覧をしていただきましたので、展示のご感想やご意見をお願いします。

委員今回の展示を見させていただき、非常に参加者がいきいき体験できるような良い展示だと思いました。特に小学生の皆さんに興味を持ってもらうのはすごく大変なことだと思います。いろんな体験コースを作って、体験してもらうという形になっている。特に感動したのは、博物館友の会の活動が非常に盛んで、友の会の方々が田植えの体験コーナーを開催して、参加された小学生の皆さんの発表を展示するスペースがございました。なかなかそういうことは、できることではないと思いますので、いろいろ努力されている。気になったことですが、壁面パネルが小さい。特に昔の生活の写真の展示

では、セピア色の写真が小さくて、子供の目には見えにくいと思います。もう少し大きくして、もっと壁面のスペースがごぎいますので、そういうところも使った方が、インパクトがあるんじゃないかという感想です。そういうことで楽しましていただきました。

委員 展示を見せていただきまして、体験することが重要だと感じました。松戸市立博物館は以前から、そういう体験ができる展示を継続的にされています。子供のときにそういう体験をしているかしていないかは、その後のことを考えたら、大きな経験だと思います。こういう形の活動をぜひ継続して欲しいです。

委員 100年前ということは、当然今の子供たちは体験していない世界や時代なわけです。私は、展示の時代のような中で育ちましたから記憶があります。そういう意味でも懐かしいと思いました。例えば蚊帳の中に入ってみたり、聞いて楽しんで喜んでリピーターになってもらうのは非常に結構なことです。けれども、実は厳しい生活でもあったということも感じていただければと思います。

委員 自分と同じ人間が、100年前にしていた暮らしだとイメージすることはとても難しいと思います。すごく工夫しているのがよくわかります。わたしはグラフィックデザイナーなので、子供向けのチラシなど作成しますが、伝えることはとても難しい。コピーライターがわかりやすいビジュアルを作っても、五感で体験することには敵わないといつも思います。ワークショップだけだと思ったら、常に体験ができるんですね。天秤棒などを触って重さを量って確かめることは良いと思いました。

委員 お子さんたちが生き生きと目を輝かせて参加していたというのが一番印象的です。先ほど他の委員もおっしゃいましたが、懐かしいと思うようなものがいっぱいある。私たちでさえ目を輝かせていろいろ楽しむことができた。ただ天秤棒は、水が入ってないのにあれだけでも重い。その重さや大変さというのをどうやって感じさせられるのかなと私も思います。

委員 長く続いている展示の素晴らしさ。友の会が20年やっているイベントですけど、体験できるコーナーを幾つ増やすか。例えば、井戸端とかから水が出る、水を汲む。実際に、ポンプから本当に出てきたらどうか。体験コーナーをふやしていくとファン層が増えるから、来館者も増えるんじゃないかと思います。

委員 小学校の周りの住宅街で、この辺のおじいちゃん、おばあちゃんが「この辺ももうすごく変わった、僕が小さいときはすごい砂利道で舗装されていなかった。」とお話していました。70年前、60年前からはもう一新されてしまっているんだなと思います。小学校2年生に、「100年前、80年前は、

お風呂は当たり前のようにすぐ沸いて入れるなんていう時代じゃなかった。」と話しても、「そんなわけない。」って思うんです。私も含めて、その時代に戻れるっていうところは、いいなって思います。そのためにも、絹と綿とかの着衣を触りたいですね。

委員 小学校3年生の子供たちと一緒にこの展示に来たとき、本当に生き生きと見ている。興味深い展示があり、体験したり触れるだけではなくて、子供たちは、それを説明してもらう人と関わることで余計に興味を持つ。

子供たちには、電気のない生活、電気がないってどういうことかを想像するのに時間がかかる。苦労もあるなと感じました。子供たちが、洗濯板が置いてあったので、洗濯する真似事をしたんです。そうしたらやっぱり、「やってみたらこんなに大変だった。」と。そういうことが実感できるのが大切で、内容が充実していると感じます。

会長 こういった昔の生活用具、日常生活で使ってきた資料を展示する企画というのは、たびたび計画されています。今回の展示は、展示解説員の方々にうまく関わっていただいている、物の説明だけではなくて使い方やその道具が現在の私たちの生活どう繋がってきているのか、移り変わりの面などについてのご説明もしていたので、大変効果的な展示になっていると思います。あと私は民俗学をやっているので、展示見ながら思い出したことがあります。

「明治大正史 世相篇」は最近角川文庫からまた新しい版が出版されました。これにはやり過ぎかなと思うぐらい、たくさん注釈がある。柳田國男たちが書いた時代の当たり前がもう今は当たり前として読めないのが、1つ1つの言葉や道具に全部注釈をつけています。博物館でああいったものの展示をしていただくのは、そういう意味で私たちの日常生活がどう変わってきたかということ、展示を見る子供たちや大人に対して、1つの注釈をしていることと同じになります。どうしても昔の道具を並べて、展示をしますみたいなことを恒例化しちゃっている施設もあるのですが、今回の展示は、試みや視覚的な資料も豊富で効果も大変上がったし、子供ミュージアムに向けての1つの実験としてもうまくいっているとの感想を持ちました。

議事はすべて終わりましたので、事務局にお返しします。

事務局 それでは、次に渡辺館長よりご挨拶申し上げます。

【渡辺館長 挨拶】

事務局 最後に、事務局から連絡事項がございます。次回の協議会は、令和6年7月開催を予定しております。改めてご案内をいたします。本日は長時間にわたってご審議いただき、ありがとうございました。これをもちまして令和5年度第3回松戸市立博物館協議会を終了いたします。